

地域のつながり く 田鶴浜の左義長 く

さ ぎ ちよう



飾り付けが終わった孟宗竹

左義長

1月14日の日曜日、市内各所で正月飾りや書初めなどが燃え上がった。

小正月に行なわれる火祭りの行事「左義長」である。

かつては1月15日の小正月に行なわれることが多かったが、国民の祝日である成人の日が1月の第2月曜日に変更されたことで、1月の第2や15日に近い日曜日に実施されるところが多くなっている。

市の指定無形文化財（風俗風習）になっている2つの左義長のひとつ大田町の左義長も、今年は14日に行なわれた。



大田の左義長

田鶴浜の左義長

もうひとつの市指定文化財である田鶴浜の左義長も以前は、2月13日・14日に行なわれていたが、今年は2月9日（金）・10日（土）に行なわれる。

田鶴浜町の東、中、南、登、丸山、殿、西、上野ヶ丘の8つの町会でそれぞれ行なわれるこの左義長には、いくつの特徴がある。そのひとつは、二日間かけて行なわれることである。

行事では、一日目の昼に孟宗竹を一本切り出し、翌日の準備を行なう。その後、松の木を宿の入り口に立てかける。

この宿は、祭を行う場所となり、町会ごとに順番や依頼することで決められる。また、夜には「くさだち」の行事が行なわれる場所でもある。

くさだちの行事では、翌日の孟宗竹に飾る「くさ」と呼ばれる笠や扇子、色紙などの飾りや御幣を制作する。

このくさだちが終わると、宿元は若衆を招待して宴を行う。また、翌日には、神官が宿を訪れ、祭礼が行なわれる。

二日目は、飾りつけた竹を立て、神事が行なわれる。その後、飾りつけた竹を倒し、正月飾りや書初めなどを焼く「総括祭」が行なわれる。

この竹を飾る飾りが、田鶴浜の左義長一番の特徴である。

御赦免

この飾りの中で、最も目をひくのが赤、青、緑、黄、白の五色の紙で作られた御赦免である。この御赦免は、左義長に先立ち各家庭に依頼し2つずつ作成してもらうもので、宿とともに全家庭に左義長に参加するかたちをとっている。

御赦免は、人形であり、昔、疫病が流行ったときに治癒を祈ったものや、罪を犯した者の赦免を託したものだと言われている。



総括祭の準備

この「御赦免」と「くさ」、竹の組み合わせは、左義

長の起源とされているものひとつ、平安時代の宮中で行事に使われた青竹を束ねたものに扇子、短冊などを添え、陰陽師が歌いはやしながらかれを焼き、その年の吉凶を占ったという行事に近いのではないかと思える。

古くから続いてきた習俗である左義長も、近年のダイオキシン問題で取りやめになった地域もあると聞く。

しかし、田鶴浜の左義長は、田鶴浜公民館での「ふるさと」の伝承教室「浜の左義長」(田鶴浜農村環境改善センター) 12月7日16:30~17:00)や「御赦免づくり教室」(同所2月6日19:30~21:00)が開催されるなど、伝統が引き継がれていっている。

また、御赦免づくりや宿など全家庭が参加する形は、地域のつながりをさらに強めているのであろう。この地域のつながりが伝統文化を継続する力となっているのである。

この田鶴浜の左義長のような地域文化がいつまでも続くことを切に願う。

周辺マップ



●は総括祭開催予定地